



# 年次報告書 2011

2011.1.1→  
2011.12.31

(認定)特定非営利活動法人 シェア=国際保健協力市民の会

- タイ タイ人自身による自立を目指した支援、地域リーダーの育成
- カンボジア 子どもを健康に育てる「村づくり」を目指した、新プロジェクト始まる
- 東ティモール 独立10周年。子どもたちの健康な未来を育むために
- 南アフリカ 保健と農業の専門性を活かした5年間のエイズプロジェクト
- 日本 多くの人に支えられて20年目を迎えた外国人の健康相談会
- 東日本大震災 地元住民による主体的な復興支援を目指して

 SHARE

すべての人に健康を! [NGOシェア] [share.or.jp](http://share.or.jp)

# さまざまな人が 共に課題に取り組む時 社会は前進する



タイでは、公式な暦が仏暦で表現され、2012年は仏暦2555年となります。2555年5月5日の縁起の良い日にシェアのタイ事務所がついに独立を果たしました。思い起こせば1990年に工藤芙美子看護師が東北タイに赴任し村の人々と健康づくりの活動を始めて今年で22年。私は1994年にエイズの活動を始めてからのお付き合いですからもう18年です。当時新人だった看護師のチェリーがシェアタイの代表になり、地域の伝染病対策局で若手のホープだったアッカド医師が隣の県の保健局長になりました。

長い年月がたちましたがその間地域の様子は大きく変わりました。当時村の中で深刻な影響を及ぼし始めていたのがエイズ。働き盛りの20代～40代の男性たちが次々と倒れ人々の中にはエイズに対する恐怖と差別が蔓延し却って感染の広がりを助長していました。しかし、その後、村の健康ボランティアや病院のHIV陽性者（感染者）達が立ち上がり、地域の中でHIVに感染した人々がケアを受けて生活していける環境を作っていました。この間、タイ政府もエイズの医療の向上に努め、当時は高額で手が出せなかったエイズ治療薬での治療を、今では誰でも無料で受けられる体制が整いました。

こうして安心してエイズの検査や治療が受けられる環境が整い、地域で新しく感染する人が大きく減少しました。こうした変化は何も私たちの活動地だけで起きたわけではありません。タイの全土で、当事者であるHIV陽性者、住民、NGO、医療関係者、政府と一緒に取り組んだ結果、タイはアジアで最初にエイズを克服した国になったのです。健康という共通の価値のためにさまざまな人がともに取り組む時、社会が大きく前進できることをタイの経験は私たちに語っています。東ティモールでもカンボジアでも、地域住民自身や地元出身のヘルスセンタースタッフの積極的な関わりこそが、感染症を減らし母子の健康を守る上で最も大きな役割を果たしています。

翻って日本で私たちの身の回りの健康問題はどうか。高齢者の医療費負担、孤独死、野宿者や在日外国人の医療へのかかりにくさ、さまざまな課題を抱えながら私たちは互いに繋がりがあうことができているでしょうか。

たとえ物やお金がなくとも人と人がつながり合い支え合えば健康を守る上で大きな前進があること。この学びと日本の社会に伝えることも私達に課された大切な使命なのかもしれません。  
皆様のご支援に深く感謝申し上げますと共に今後とも一層の御支援を宜しくお願い申し上げます。

副代表・事務局長代行 伊田貴志

なお末尾になりましたが、この報告書を皆さまのお手元にお届けするのが、さまざまな事情で遅れてしまったことを、心よりお詫び申し上げます。

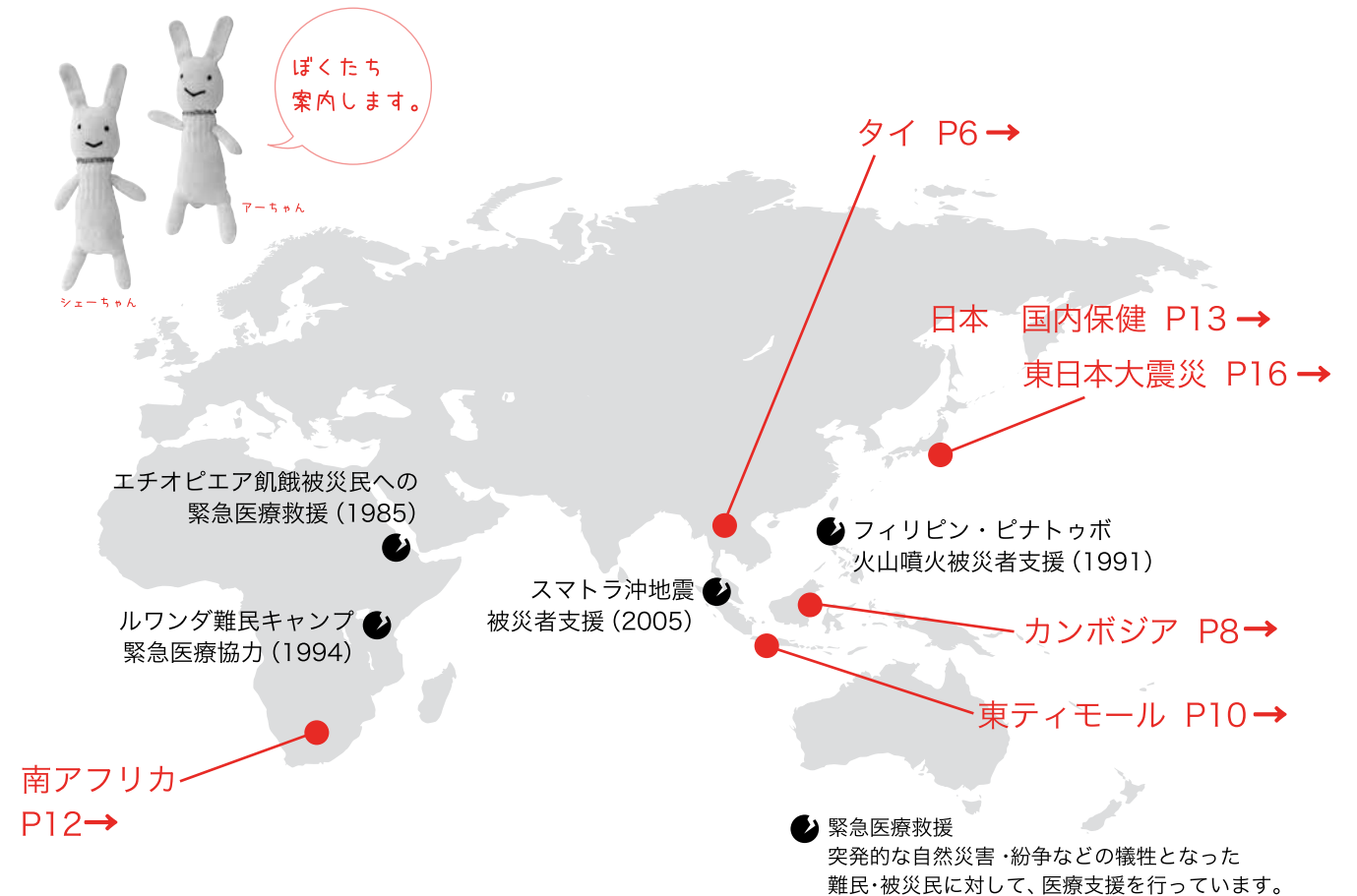
シェアが目指していること

Health for ALL

シェアは、すべての人々が心身共に健康に暮らせる社会が実現することを目指しています。

シェアが取り組んでいること

シェアは、厳しい境遇にある住民が自ら健康を改善することを、側面から支援します。  
また、シェアは、貧富の差や不公正を解消するために私たちに何ができるかを、日本社会に問いかけていきます。



	タイ	カンボジア	東ティモール	日本
出生時平均余命	74 歳	63 歳	62 歳	83 歳
成人 HIV 感染率	1.3 %	0.5 %	-	< 0.1 %
乳幼児死亡率 (出生 1,000)	11 人	43 人	46 人	2 人
5歳未満児死亡率 (出生 1,000)	13 人	51 人	55 人	3 人
妊産婦死亡率 (出生 10 万)	48 人	290 人	370 人	6 人
栄養不良の5歳未満児の比率(低体重)	7 %	28 %	45 %	-

出典：ユニセフ世界子供白書 2012

日本と比較すると途上国の状況がよくわかるね。



# 2011年の活動ハイライト

2011年の活動の一部をご紹介します。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
 <b>タイ</b>	男性同性愛者(MSM)グループリーダー育成研修を実施 	地域の学校からの依頼で、学校で性教育を実施 	日本人保健専門家によるスタッフおよびHIV陽性者リーダー対象の能力強化研修を実施(3~4月) 	HIV/AIDSに影響を受けている子どもと家族のためのファミリーキャンプを実施 	HIV陽性者リーダー対象のスタディツアーを実施。シェアの元活動地の病院HIV陽性者グループの活動を視察した 	若者対象 HIV/AIDS 予防啓発トレーニング、エイズキャンペーン、若者対象活動のボランティアリーダーのための経験交流活動 3年間の事業の外部評価を実施 	女性同性愛者対象のワークショップを初めて行った 	スタディツアー実施 	若者対象の HIV/AIDS 予防啓発トレーニング実施 地元の区役所2か所からヘルスボランティア対象の保健トレーニングの講師として招かれた 	地域のポートレース祭りでエイズキャンペーンを行った 	タイ事務所スタッフおよびタイ事務所の新生財団発起人による年次振り返り・計画会議を実施 	MSMリーダー、若者の活動ボランティアリーダー対象にパソコン研修 スタッフ対象のチームワークおよび能力強化研修を実施 
 <b>カンボジア</b>	保健センタースタッフや保健ボランティアに質問調査を実施 	各村で2歳未満児をフォローするためのリストと地図を作成 	保健センター・スタッフ対象診断能力強化フォローアップ研修の実施 	新プロジェクト・オープニングワークショップを開催 	ベースライン一次調査(身体計測)を開始(〜8月)。対象79ヶ村の2歳未満児計1,834名の身体計測を実施 	保健センター、ボランティアと身体計測の結果を共有 保健センター・スタッフ対象診断能力強化フォローアップ研修の実施 	スタディツアー実施 ベースライン2次調査を開始。6ヶ月〜23ヶ月の子どもをもつ養育者441名に対する家庭でのケアに関するインタビューを行った。 	母子保健プロジェクトベースライン調査結果共有ワークショップ開催 	保健センタースタッフ対象「赤ちゃんに優しいコミュニティ」プログラムの研修 	カンボジア洪水支援、洪水被害状況の調査と緊急支援の実施 	保健センタースタッフ対象「赤ちゃんに優しいコミュニティ」プログラムの研修 	MSMリーダー、若者の活動ボランティアリーダー対象にパソコン研修 スタッフ対象のチームワークおよび能力強化研修を実施 
 <b>東ティモール</b>	エルメラ県で小学校校長を対象に、学校保健についての研修を開き79名が参加 	エルメラ県の県レベルトレーナー対象に第3回目のリフレクチャー研修を開催 	アイレウ県の全保健ボランティアを対象に、保健教育強化研修を行い、206名中170名が参加 	アイレウ県ラハエ村でSISCaへの参加者を増やすための住民会議を開きました 約50名の村人が参加し、新しいSISCaの場所が選ばれた 	エルメラ県のパイロット小学校における活動で、給食の質を向上させるための学校菜園を開始した 	エルメラ県の小学生が歌う、手洗いやマラリア予防などのシアアの保健の歌8曲が収録されたCDの教材を作成、小学校などに配布予定 	郡保健センタースタッフと共に、毎月のSISCaへのモニタリングを行い、保健ボランティアへのサポートを行った 	保健省栄養課や県保健局が中心となって開会式が行われ、栄養教育のためのSISCa菜園作りが始まった 	エルメラ県の学校菜園で採れた野菜が、学校給食として子どもたちに提供され始めた 	SISCa菜園で収穫された野菜を使って、SISCaで多くの母親が参加し離乳食・栄養講習を行った 	デビッド・ワーナー氏を招へいし、保健ボランティア対象研修や小学校での実践研修、国レベルでの講演会を行った 	デリにてシェアがサポートし、保健省と教育省の主催による初の学校保健についての国レベル会議が開催された 
 <b>日本国内保健</b>	東京都新宿区で外国人のための無料健康相談会を開催し32名が受診 	横浜市鶴見区で外国人のための無料健康相談会を開催し、284名が受診 医療相談員対象の「外国人 HIV 陽性者療養支援セミナー」を沖縄県で開催し34名が受講 	千葉県市原市で外国人のための無料健康相談会を開催し55名が受診 	神奈川県川崎市で外国人のための無料健康相談会を開催し、66名が受診 	外国人結核患者療養支援のための新規支援員研修を東京都で開催、初めてモンゴル語支援員を追加 	外国人のための無料健康相談会を開催し、横浜市61名、板橋区50名が受診 	第10回アジア・太平洋地域国際エイズ会議(韓国釜山)へ研究班メンバーとして参加し、サテライトシンポジウムを開催 	外国人結核患者療養支援のための支援員(通訳)のフォローアップ研修を東京都と神奈川県大和市で外国人のための無料健康相談会を開催し49名が受診 	医療相談員対象の「外国人 HIV 陽性者療養支援セミナー」を開催し、愛知37名、北海道19名の方が受講 埼玉県でTAWANと協働してエイズ予防啓発を実施 	外国人のための無料健康相談会を開催し、市川市26名、藤沢市20名が受診 	日本エイズ学会で「NPOへの相談から見た外国人診療困難事例の分析」という題でポスター発表 	
 <b>日本東日本大震災</b>	◆緊急医療支援(宮城県名取市)(3月18日から3月28日まで) - 緊急医療支援開始。東北国際クリニックにチームを派遣し診療を開始 - 三陸海岸地域への医薬品配付と支援ニーズ調査 ◆在宅被災者、避難所及び仮設住宅への訪問・健康相談活動(宮城県気仙沼市)(3月28日から9月30日まで) - 看護師/コーディネーター派遣を開始 - 市が発足させた「気仙沼巡回療養支援隊 健康相談班」へ参加 自宅に避難している高齢者、障がい者、母子など社会的弱者への巡回訪問による健康相談を開始。(〜6/1)健康相談班のコーディネーターを勤める 	気仙沼市の乳幼児健診再開支援として、健診対象の母子への訪問健康相談及び安否確認を開始(〜6/10) 	現地に長期駐在するプロジェクトコーディネーターを派遣 小規模避難所の巡回健康相談を開始 	仮設住宅の巡回健康相談を開始 	地元NPO設立・運営支援(宮城県気仙沼市)階上(はしかみ)地区にトレーラーハウスを設置 	地元関係者によるNPO「生活支援プロジェクトK」(以下プロジェクトK)設立 プロジェクトKと共同事業で階上地域で中心に被災者への支援活動を開始 トレーラーハウスを「はしかみ交流広場」としてオープニングイベント開催 	「気仙沼巡回療養支援隊」解散。健康相談業務を気仙沼市行政に引き継ぎ、健康相談活動を終了。 プロジェクトKとの共同事業では、他団体との共催で毎週編み物講座開始 	プロジェクトKとの共同事業の本格化へ健康相談や地域交流イベント開催・参加 	プロジェクトKと活動。地元のイベントに救護班として参加 他団体の仮設住宅でのお茶会で健康相談 仮設住宅自治会の側面支援を開始 	支援機関間の連携を取るため階上地区支援者ミーティングを開始 各仮設住宅でのお茶会などで、健康相談などを実施 		
 <b>事務局</b>	沖縄タイムスで、月1回の連載コラム開始 	東ティモール活動報告会「歌って学んで保健教育♪-小学校での保健教育普及を目指して」開催 	会員総会 東日本大震災のよる安全を考慮し、事務局ボランティアの受け入れを一時制限 	タイ・カンボジア合同活動報告会開催 フリマ実行委員会がフリーマーケットに出店 	東ティモール活動報告会開催 	東日本大震災活動報告会「保健医療支援～緊急から復興フェーズへ 保健医療NGOに求められる役割～」開催 国内保健活動報告会開催 	広報紙「シェアライフ」創刊 インターン連続企画「国際保健をもっと知りたいたい!!～しゃべり場で聞こう・語ろう・考えよう～」開催(全4回) 	沖縄平和賞受賞記念シンポジウム開催 タイ人スタッフチェリー来日 報告会開催 鹿児島にて、カンボジア活動報告会開催 	インターン連続企画第2回「シェアスタッフさんの声を聞こう!!国際保健への思い」開催 	年次計画会議 ボランティア交流会開催 		



# タイ人自身による自立を目指した支援 地域リーダーの育成

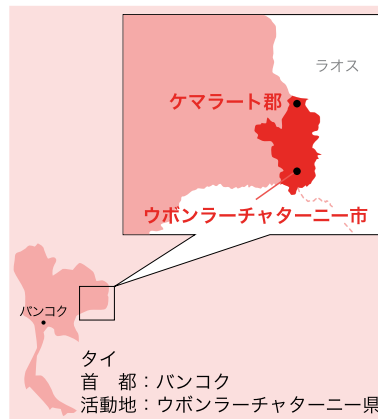
## タイ Thailand



### 活動の背景・課題

#### グループおよび地域リーダーを育てることで、地域の自立を目指します

2008年よりタイ-ラオス国境のウボンラーチャターニー県ケマラート郡でHIV陽性者、ラオス人移住労働者、男性が性の対象である男性（以下、Men who have Sex with Men: MSM）グループのエイズプロジェクトを始めて4年が経ちました。今後当会がいなくなっても活動を継続していけるようにグループのリーダーへの研修、新リーダーの発掘・育成に力を入れてきました。また保健関係者および地域関係者から構成されるエイズアクションネットワークを立ち上げ、地域関係者会議および研修を行い、地域関係者が主体的に住民のHIV/AIDS予防啓発活動を行えることを目指しています。



### プロジェクト概要

#### タイ-ラオス国境地域における HIV 予防啓発およびケア・サポート

##### 活動目的

エイズを含む性感染症に新規に感染する人が減少し、包括的なケアにアクセスできる HIV 陽性者および影響を受けている人々が増加すること。

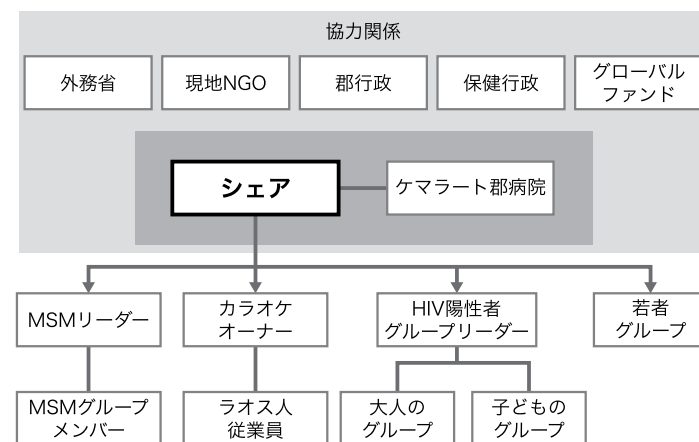
##### 活動地

ウボンラーチャターニー県ケマラート郡

##### 対象者

HIV 陽性者、MSM、ラオス人移住労働者、雇用者、若者、地域関係者、地域の人々

##### 活動概要図



### 活動報告

#### 各グループの意見を聞き、共に考えながら活動を進めました

ラオス人移住労働者：カラオケバーで働く従業員の多くがラオス人移住労働者で性産業に従事する人もいますが、性感染症（以下、Sexually Transmitted Disease: STD）やその感染の危険性について知らない人が多くいます。当会は HIV を含めた STD、その予防および検査の大切さを伝え、ケマラート郡病院と協力して郡病院のヘルスサービスが利用できるように調整しました。  
MSM：リーダー研修を受けて育った MSM リーダーが中心となって、MSM メンバーへ HIV を含めた STD の予防啓発活動やカウンセリングを行いました。また地域の行事に合わせて MSM メンバーや地域住民にリーフレットやコンドームを配布し、HIV/AIDS 予防ツールへのアクセスを呼びかけました。  
HIV 陽性者グループ：リーダー研修を受けて、陽性者リーダーが大人及び子どものグループ活動や、陽性者メンバーへの家庭訪問を実施しました。  
若者：大人の地域リーダーに働きかけ、地域リーダーが中心となって若者対象の HIV/AIDS 予防啓発活動を行いました。



保健専門家による陽性者リーダー研修の様子



リーダー研修後の定例会での発表

### 成果

#### シェアタイがいなくなっても活動を継続していけるように

- ・ラオス人移住労働者が無料で郡病院の STD/HIV 検診、子宮頸がん検診が受けられるようになりました。
- ・MSM メンバーが HIV/AIDS 予防ツールにアクセスし、予防に対する意識が高まりました。
- ・MSM リーダーが地域の HIV/AIDS 予防啓発トレーニングで講師として呼ばれるようになり、彼らの自尊心が高まりました。
- ・HIV 陽性者リーダーがグループ活動の司会やファシリテーターを務め、運営段階から携わっています。

### 活動計画

#### スタッフや地域のグループリーダーの育成と組織運営支援に力をいれます

2012年は地域リーダーの自立を目指してグループリーダーを育成するタイ人スタッフやリーダーの育成に力をいれながら、現在の活動（HIV 陽性者グループの支援、ラオス人移住労働者、MSM、若者対象の HIV を含めた性感染症予防啓発活動）を継続して行います。また、シェアタイは財団法人化を目指して、現在登記手続きを行っています。今後タイ事務所がタイの新財団として円滑に事業を実施していくために、引き続き会計システムの確立や財務および日本の事例を活かしながら組織運営の支援を行います。

#### 活動の難しさ タイ東北部の出稼ぎ



タイ東北部は貧困地域と言われ、農家出身の人々が90%以上います。農業収入だけでは生活することができないため、ほとんどの人々が出稼ぎに出ています。シェアの活動の中心となっていたリーダーたちもほとんどボランティアベースで日当が出ないため、日々の生活が困難となった場合、活動の運営を断念し出稼ぎをせざるを得ません。写真は陽性者リーダーの家庭訪問の様子です。



# 子どもを健康に育てる 「村づくり」を目指した、 新プロジェクト始まる

## カンボジア Cambodia



### 活動の背景・課題

#### 子どもの健康を守るコミュニティづくりを目指して

プレイベン州は子どもの健康指標が悪く、栄養不良の子どもの割合が高い州の一つです。経済状況が厳しく、インフラも十分に整っていない農村地域で子どもの健康を守るには、子どものケアについて住民自身の保健知識・行動が改善されること、また住民に最も近い医療機関である保健センターのスタッフが、栄養不良の子どもを早期に発見し、適切に対応できる仕組みができることが必須です。シェアは①予防、②診断、③治療の3本柱の活動で、地域の人々と子どもの健康増進を目指します。



### プロジェクト概要

#### スバイアントー郡保健行政区における子どもの健康増進プロジェクト

##### 活動目的

コミュニティをベースとした2歳未満児の健康増進活動（包括的乳幼児健康診断、保健教育、乳幼児の適切な栄養についての啓蒙活動）が定着する。

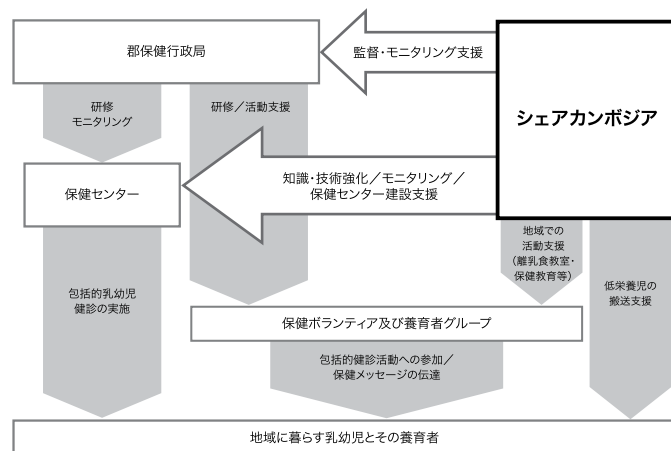
##### 活動地

プレイベン州スバイアントー郡保健行政区内の5保健センター区（79ヶ村）

##### 対象者

2歳未満の乳幼児 約2,100名とその養育者

##### 活動概要図



### 活動報告

#### 全対象地域に住む子どもの健康状態を把握するための実態調査を実施しました

2月に保健センター・スタッフと保健ボランティアの協力による乳幼児健診を軸とした先行事業「スバイアントー郡保健行政区コミュニティにおける母子保健プロジェクト」が終了し、3月より新プロジェクト「スバイアントー郡保健行政区における子どもの健康増進プロジェクト」を開始しました。まずは乳幼児の健康状態を把握するための調査として、対象79ヶ村に住む2歳未満児1,834名の身体測定と、6～23ヶ月の養育者441名に対する家庭での子どものケアに関するインタビューを行いました。また今後コミュニティで開始される「乳幼児の適切な栄養」についての啓蒙活動開始に向けて、保健センター・スタッフ対象の研修を国立栄養プログラム及び州・郡保健局の担当官と協力し実施しました。

東南アジアを襲った大雨による洪水被害に対しては、半世帯以上の家屋が冠水状態にあったスバイアントー郡バンテアイ村にて、緊急支援活動を実施しました。

### 成果

#### 保健ボランティアの協力により見えてきた、地域の子どもの健康とケアの実態

4月に実施した新プロジェクトのオープニング・ワークショップでは、乳幼児健診活動を通して得られた成果を発表しました。その結果、病院での治療が必要な栄養不良児の搬送支援に、州保健局及び州病院が積極的に取り組み始めるようになりました。またベースライン調査では準備段階から、保健ボランティアの参加を促し、対象の79ヶ村全てにおいて2歳未満児の名簿と世帯を示す地図を作成することができました。対象の2歳未満児のうち8割を超える1,835名の身体計測を行い、そのうち431名が低体重であること、さらに4割近くが慢性の栄養不良状態であることが分かりました。また、各家庭での子どものケア（食行動、健康希求行動）の問題点や、出生体重・世帯構成人数も子どもが低体重になる要因であることも明らかになりました。



調査で発見された低体重の子どもの診療をするスタッフの虎頭（左）

### 活動計画

#### 子どもの健康増進を目指した本格的な活動が始まります

ベースライン調査結果をもとに郡保健局、保健センター・スタッフ、保健ボランティアがそれぞれの地域で起こっている問題について分析し、目標と具体的な活動計画をたてます。

第1フェーズに引き続き、乳幼児健康診断の実施とその質の強化を行う一方で、保健ボランティアや養育者グループによる子どものケアについての啓蒙活動といった子どもの健康増進を目指した本格的な活動をコミュニティにて行います。

#### 挑戦 子ども達の元気な成長を願う村での取り組みを応援します！



ベースライン調査の結果を基に、保健ボランティアと保健スタッフが参加型で活動計画をつくりました。「子どもたちが健康な村」を目指して、まずは2013年3月までに何人の子どもが栄養不良から回復できるか、保健ボランティアがそれぞれの村の目標値を決めました。皆が一丸となって同じ目標に向かって挑戦する姿に、私たちシェア・スタッフも心を奮い立たせられる毎日です。

# 独立 10 周年。 子どもたちの 健康な未来を育むために 東ティモール

TIMOR-LESTE



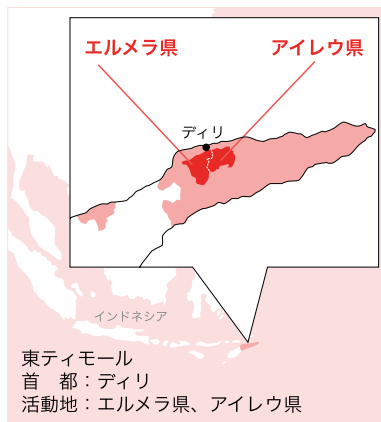
## 活動の背景・課題

### 少しずつ保健状況が改善、次のステップへ

シェアは 1999 年の緊急医療支援に始まり、今年で 13 年目の支援となりました。地方では、未だ上水道など基本的な衛生施設の利用は 4 割に留まり、予防可能な感染症で命を落とす人が少なくありません。

人々が病気の予防方法を学び、実践できるよう、学校や地域で保健教育ができる人材のさらなる育成や、県行政機関と共に保健サービスへのしくみ作りに取り組んでいます。

東ティモールはアジアの中でも子どもたちの健康状態がよくない国なんだ。



## プロジェクト概要

### エルメラ県小学校における保健教育プロジェクト

#### 活動目的

トレーニングを受けた教師が、定期的に学校で保健教育を実施できるようになる。

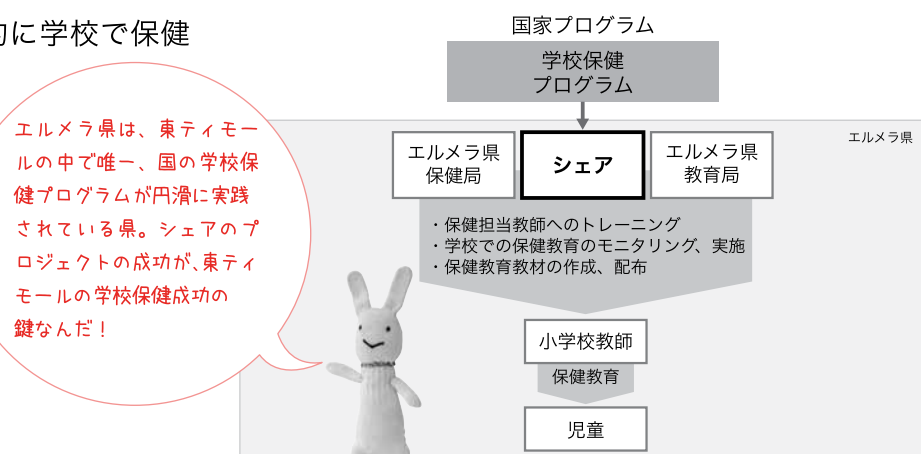
#### 活動地

エルメラ県（人口 11 万 7 千人）

#### 対象者

小学校の保健担当教師、校長、児童

#### 活動概要図



エルメラ県は、東ティモールの中で唯一、国の学校保健プログラムが円滑に実践されている県。シェアのプロジェクトの成功が、東ティモールの学校保健成功の鍵なんだ！



## 活動報告・成果・計画

### 地域や学校で、学校保健活動への認知度が高まってきました

学校保健についての重要性の認識や保健知識の強化を目的とした、教師や校長対象の研修の出席率は、平均 8 割を超えています。2008 年から行っている、教師と子どもたちの保健意識向上のための小学校対抗の保健のコンテストも、年々参加校が増え、学校保健への関心が高まっています。学校では子どもたちによる保健グループが結成され、農業局など他セクターも協力し、給食の栄養改善のための学校菜園も始まりました。今後は、学校保健がさらに浸透していくよう、父兄会や学校保健関係者との連携強化を図ります。



学校での保健活動計画について話し合う校長たちに付き添うスタッフの守

## プロジェクト概要

### アイレウ県保健ボランティアへのサポート向上プロジェクト

#### 活動目的

郡保健センターが、保健ボランティアへのサポートと、地域と連携してよりよい SISCa 活動（SISCa：村での巡回母子健診を含む、包括的保健サービス）が行えるようになる。

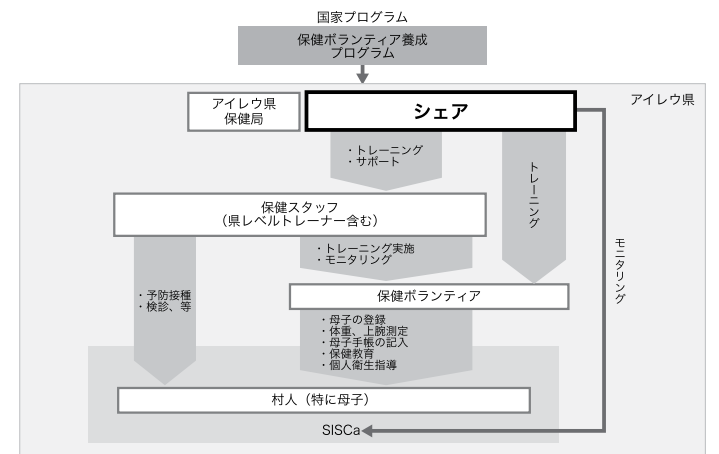
#### 活動地

アイレウ県（人口 4 万 6 千人）

#### 対象者

保健センタースタッフ、保健ボランティア、母子

#### 活動概要図



## 活動報告・成果・計画

### 保健サービスの改善に向け、保健スタッフと住民の協働が進んでいます

プロジェクト開始当時は、村で定期的実施されていなかった SISCa が、保健スタッフと約 200 名の保健ボランティアによって、毎月全 31 か村で開催されるようになりました。しかしまだ妊産婦健診に来ていない人や、予防接種を受けていない子どもたちが多くいます。そこで今年度から、保健センタースタッフと共に定例会議を開き、現状把握を始めました。保健センターが中心となり、住民と村の健康問題について話し合う会議も 4 村で計 6 回行われ、「SISCa は自分たちの村にとって大切なもの」と積極的に協力する住民が増えてきました。すべての母子が母子健診を受けられるように、保健スタッフによる保健ボランティアへの研修やサポートの定着に取り組みます。

### 活動からの喜び 東ティモールの未来へ向けて



僕の名前はアビリオです。4 月に長男が生まれ、新米パパとして奮闘中です。普段はエルメラ県の保健スタッフとして働いていますが、学校保健県レベルトレーナーとして活動するようになり 2 年が経ちました。初めは自分が新しい知識や技術を学ぶことに喜びを感じていましたが、今は、自分の知識が『子どもたちが健康に学校生活を送る』ことに役立ち、子どもたちの未来つまり東ティモールの未来のための活動ができていることに喜びを感じています。



# 保健と農業の専門性を活かした 5年間のエイズプロジェクト 南アフリカ

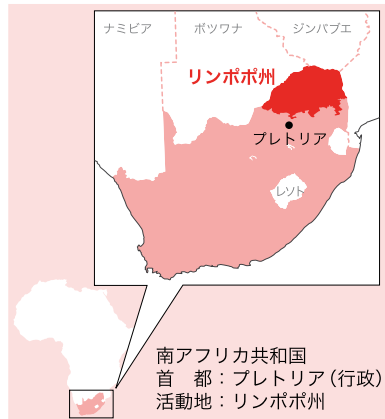
SOUTH AFRICA



## 活動の背景・課題

### シェアが培ってきたエイズへの取り組みの経験を活かして

人口の約11%に当たる560万人がHIVに感染している南アフリカ（UNAIDS2009）。貧困地域の一つリンポポ州では、エイズへの差別偏見が根強く、対策も遅れています。HIV陽性者が健康を維持していくためのサポート体制の向上と、HIV陽性者を含む地域住民が効果的なHIV感染拡大予防活動に取り組むことができるようになることを目指し、シェアはJVCと協働で、2005年8月よりエイズへの取り組みを開始しました。成果の遅れていた活動のみ1年半延長し、現地パートナー団体の『ポロシオン』、『LMCC』と活動を行いました。HIV陽性者／在宅介護ボランティア／クリニックのエイズ担当官対象に治療に関する研修、予防啓発キャンペーン実施、タイへのスタディーツアー、前フェーズ家庭菜園研修参加者に家庭菜園づくり指導者研修、フォローアップ研修等を行い、2011年は最終報告書を作成して、事業終了となりました。



## 成果

### HIV陽性者自身が自信を持って、活動できるようになりました

根深い貧困が背景にあるアフリカではエイズだけに活動を特化することは難しく、保健の専門性と農業の経験を活かした包括的なアプローチがとても有効でした。具体的な成果は以下のとおりです。

- ・ **HIV陽性者のエンパワーメント**: 陽性者は研修・タイスタディーツアーなどを通して自信をつけ、陽性者グループの立ち上げや、他の陽性者に学んだことを伝えられています。また地域でスピーカーとなり予防啓発活動に関わるようになっていきます。
- ・ **地域での予防啓発活動**: HIV陽性者と地域の関係者が協力し、地域で結核・HIV感染予防啓発キャンペーンを実施することができました。
- ・ **ケア・サポート**: 治療、栄養改善、家庭菜園等の研修を通して、在宅介護ボランティアやクリニックのエイズ担当官の知識が向上し、自信を持ってHIV陽性者のケア・サポートをすることができるようになりました。
- ・ **地域での連携強化**: HIV陽性者同士また陽性者と地域のエイズ関連の関係者（在宅介護ボランティア、医療機関など）とのネットワークが強化されました。

# 多くの人に支えられて 20年目を迎えた 外国人の健康相談会

日本

Japan



## 活動の背景・課題

### 健康の機会の平等は実現しているのでしょうか

日本の外国人登録者数が200万人を超えて7年目。少子高齢化が進む中、今後も外国人の労働力に日本経済が頼る割合が増え続けることが予測されます。シェアが外国人の医療相談を始めてから20年が経ちましたが、問題の解決にはまだまだ程遠い現状です。言葉の障壁や情報の不足、経済的な理由などから緊急医療を受けるのが遅れたり深刻な病状にもかかわらず必要な支援に出会えない人も多く、外国人の健康を守るための社会制度の整備はまだこれからです。不況のもとで経済的な理由から健康維持に支障がでる人も外国人が目立ちます。全ての人の健康が尊重される社会を目指して、関係機関や外国人コミュニティと連携し多様な活動に取り組まれました。



## プロジェクト概要

### 国内保健（在日外国人の健康支援）プロジェクト

#### 活動目的

医療サービスを受けることが困難な在日外国人が、健康を維持・増進できるような支援体制を整備する。

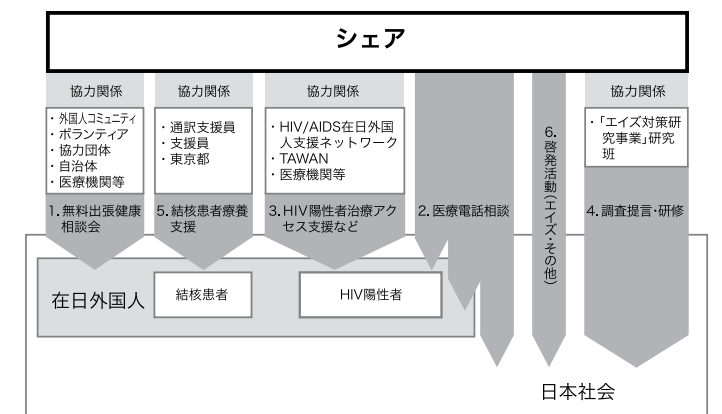
#### 活動地

関東甲信越エリア。電話相談対応は全国エリア。

#### 対象者

保健医療サービスを受けることが困難な在日外国人とその支援者

#### 活動概要図



## 出張相談、電話相談、研修開催、啓発・提言など様々な角度から活動を実施

### 1. 無料出張健康相談会

健康相談会を通して、日頃医療機関を受診できず体調不良や病気を放置していた方々が、医療機関への紹介を経て治療につながりました。東日本大震災の影響で今年は開催数、参加者ともに例年より減少しました。今年も、学生ボランティア向けに外国人のおかれている現状を伝える勉強会を1回開催しました。

実施回数：合計9回（港町診療所主催の会に協力した5回含む） 開催地域：東京都、神奈川県、千葉県  
 受診者数：643人（前年度より217人減少） 国籍：43ヶ国 ボランティア数：年間延べ384人以上  
 内容：胸部レントゲン撮影、血圧測定、医科・歯科相談等。必要に応じ栄養相談対応や医療機関へ紹介。

### 2. 外国人医療電話相談

震災の影響で年間相談対応回数が昨年より減少しました。内容はエイズに限らず、多様化、複雑化しています。外国人からの相談より、医療相談員等、保健医療関係者からの相談が多いのは例年の傾向です。

●外国人医療電話相談（日本語・英語）  
 電話：050-3424-0195（直通）  
 03-5807-7581（代表）  
 日時：月～金 10:00～17:00

相談対応回数：357回（昨年541回）。

●タイ語エイズ・健康電話相談  
 電話：080-3791-3630（タウン担当）  
 日時：木 9:00～16:00 土 17:30～22:00

外国人医療電話相談対応回数（2011）

相談対象	相談分類	ケース数	回数
タイ人	エイズ	36	125
	一般医療・健康	20	26
	その他	2	2
外国人（タイ以外）	エイズ	21	60
	一般医療・健康	44	124
	その他	0	0
日本人	エイズ	14	19
	一般医療・健康	1	1
合計		138	357

※回数は、相談に対するシェアからの調整連絡やe-mailでの相談も含む

### 3. 外国人結核患者療養支援のための通訳派遣

東京都の事業に協力し、外国人結核患者療養支援のための治療服薬支援員（通訳）を、保健所の依頼を受け147件派遣しました。東日本大震災直後に依頼が減少したことで派遣数はほぼ昨年並みとなりましたが、昨年の後半は依頼が増えており、次年度はさらに派遣依頼が増えることが予想されます。また、モンゴル語支援員を初めて追加し計14言語・42名体制となりました。新規支援員研修を1回、フォローアップ研修を2回開催しました。派遣調整で係わった保健師から寄せられる、外国人保健医療や生活・福祉に関する相談が年々増加しています。

言語別派遣実績

対象言語	2006	2007	2008	2009	2010	2011	総計
中国語	12	11	30	26	27	31	137
フィリピン語	7	12	9	9	50	26	113
ネパール語	0	8	8	19	23	35	93
英語	7	13	15	27	19	10	91
ミャンマー語	2	1	7	3	13	11	37
ハングル	4	2	10	13	4	0	33
ヒンディー語	-	-	0	0	0	21	21
タイ語	7	5	0	0	6	2	20
ベトナム語	0	0	0	1	4	10	15
スペイン語	0	3	2	0	0	0	5
インドネシア語	0	0	0	1	3	0	4
フランス語	0	0	0	0	2	1	3
ポルトガル語	0	0	0	0	1	0	1
モンゴル語	-	-	-	-	-	0	0
合計	39	55	81	99	152	147	573

### 4. 在日タイ人エイズ啓発

タウン<sup>1)</sup>と協働し、在日タイ人HIV陽性者が早期に受検・受診できるよう、関東甲信越のタイ人コミュニティでエイズ啓発を行いました（埼玉、千葉、茨城、長野、山梨の計5回）。シェアがタウンと共に過去に実施した、タイ人エイズボランティア研修参加者の協力を各地で得られてきています。埼玉での開催の際は来日していたシェアタイ事務所マネージャーのシリワン・



エイズの啓発はタイ人同志で

アサスリも協力し好評でした。タイ語雑誌にエイズやSTI等に関する啓発記事も掲載しました。

### 5. エイズ患者支援

2009年にふれいす東京が開始した厚生労働省委託事業「エイズ患者等に対する社会的支援事業」において、外国人支援の部分をシェア、CRIATIVOS<sup>2)</sup>、CHARM<sup>3)</sup>が協力しています。医療電話相談、医療通訳派遣、出身国の情報収集・帰国支援、等実施しました。

### 6. 調査・研究

平成22年4月より厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「外国人のHIV予防対策とその介入効果に関する研究」班で、外国人のHIV予防・早期受診・受検を実現するために研究協力を実施しています。今年タイ人向けのアウトリーチにより早期受診・受検の啓発とチラシの配布、HIV陽性外国人療養支援セミナーの開催（沖縄、愛知、北海道）、日本エイズ学会発表、ICAAP10（下記参照）でサテライトシンポジウムも開催しました。

### 7. その他啓発・アドボカシー（普及啓発・政策提言）

保健医療関係者から外国人に関する相談を受ける中で、相談者が外国人の人権を守った対応ができるよう適宜アドバイスや提案を行いました。本年発生したタイ大洪水によりタイ人労働者を日本が受け入れることになった際には、HIV陽性タイ人が来日する場合に備え環境の整備に着手しました。その他、学会発表、講義、講演、雑誌投稿、移住者の健康支援に関するNGO等とのネットワーキング構築、移住労働者と連帯するネットワーク分科会「外国人医療と生活ネットワーク」月例会参加、等を行いました。

### 活動計画

**シェアに寄せられるケースの国籍やニーズが多様化。シェアがなすべきことは**  
 在日外国人への健康支援のために2011年同様、次の活動を実施します。

無料出張健康相談会、医療電話相談、外国人結核患者療養支援のための通訳派遣・育成、タイ人へのエイズ啓発、エイズ患者支援、調査提言・研究（最終年度）、その他啓発・アドボカシー事業（外国人エイズ医療の改善）、学会発表、在日外国人医療支援に関する国内外NGO等とのネットワーキング構築、等

### 活動の学び 国内外のネットワーク作りの大切さと楽しさを実感



8月に韓国釜山で開催されたICAAP10（第10回アジア・太平洋地域国際エイズ会議）に研究班メンバーで参加しました。「アジア地域の移住労働者受け入れ国におけるHIV/AIDS予防、治療、ケアサポートへのアクセス向上のためのネットワーキング構築」と題してサテライトシンポジウムを、韓国、タイ、中国のNGOや国際機関の方々の協力を得て開催しました。終了後の交流会には様々な関係者の方々が集い、思い出深い会となりました。韓国の皆さんは最後までおもてなししてくださり大変感謝しています。このような場で築いたネットワークは、外国人医療電話相談で寄せられる帰国支援や出身国情報の収集の支えとなっています。

1) 日本に住むタイ人の健康をサポートするボランティアグループタウン  
 2) 特定非営利活動法人 CRIATIVOS - HIV・STD 関連支援センター

3) 特定非営利活動法人 CHARM



# 地元住民による主体的な復興支援を 目指して

# 日本 東日本大震災 Japan

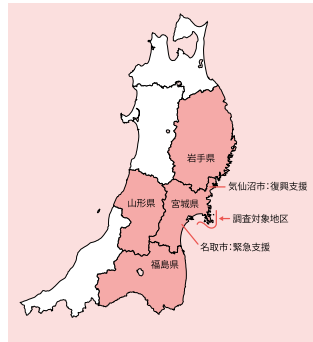


## 活動の背景・課題

### 復興に向けて住民に寄り添い、共に歩む

2011年3月11日東日本大震災により、地震・津波による甚大な被害が出ました。シェアは、これまでの経験を活かし、宮城県の名取市で医療機関への支援を行い、その後気仙沼市に移動しました。気仙沼市では約1300人が死亡・行方不明、約15000棟が被災と、大きな被害を受けました。在宅被災者の安否、健康相談のため、高齢者、障がい者、母子などへの看護師による巡回訪問、そして各自治体より派遣された保健師のコーディネートを行いました。

復興への長い道のりを見据え、思いを同じくする地元の保健福祉関係者に会い、新しい地元NPOの立ち上げを支援し、共同事業を開始しました。



## プロジェクト概要

### 東日本大震災緊急支援事業

#### 活動目的

地元の保健医療関係者と協力して住民への健康回復への支援を行い、地域の保健医療の復興を支援する

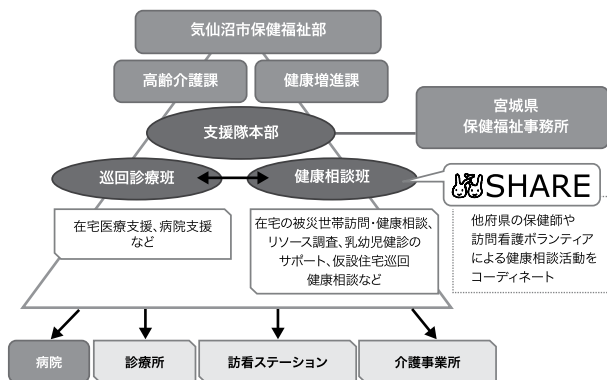
#### 活動地

3月18日-28日 宮城県名取市（緊急フェーズ）  
3月30日-現在 宮城県気仙沼市（移行・復興フェーズ）

#### 対象者

東日本大震災に影響を受けた地域住民、地元保健機関など

### 気仙沼市巡回療養支援隊(JRS)



## 活動報告・成果

### 緊急支援から復興支援へ

1. 緊急医療支援（名取市・3月18日～3月28日）  
名取市の東北国際クリニックへ、医療チームを派遣しました。その後、石巻、南三陸町などで支援物資・医薬品を配布、現地調査を実施しました。

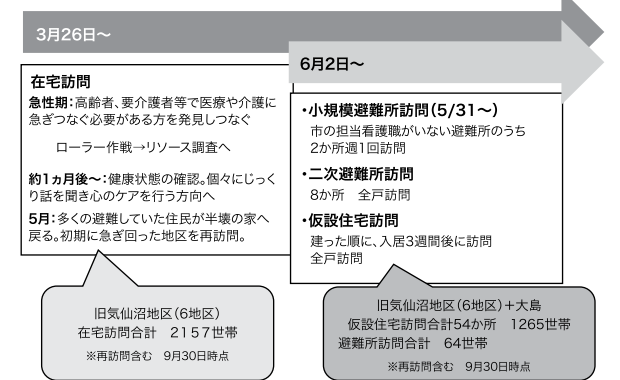
2. 巡回訪問・健康相談活動（気仙沼市・3月30日～9月30日）

『気仙沼市巡回療養支援隊』の健康相談班では、巡回訪問による健康相談活動の他に、コーディネーターとして自治体からの保健師との調整、行政や地元の医療・介護事業者につなぐ業務を行いました。在宅訪問数は2157世帯、仮設住宅、小規模避難所等は1329世帯となり、この活動は気仙沼市行政へ9月末に引継ぎ、終了しました。

3. 地元NPOの立ち上げ支援と共同事業（気仙沼市・7月～）

気仙沼のNPO、(特活)「生活支援プロジェクトK」(法人設立認証2012年2月2日)の立ち上げ支援と共同事業を開始しました。階上地区にトレーラーハウス「はしかみ交流広場」を設置し、仮設住宅や在宅の住民への生活支援と、新しいコミュニティを形成する自治会への支援を行っています。

### 巡回健康相談班の活動の流れ



## 活動計画

### 住民が本当に必要としているサポートのあり方を常に考えた復興支援を

宮城県気仙沼市において、(特活)生活支援プロジェクトKとの共同事業を2013年8月まで行っていきます。

- ・(特活)生活支援プロジェクトKの能力強化：NPOとしての運営能力の向上、自立した活動ができるように支援していきます。定期的にシェアとの会議開催や、保健アドバイザーを定期的に派遣していきます。
- ・地域住民への生活支援：「はしかみ交流広場」を週6日オープンし、仮設住宅の住民を含む地域の人々が気軽に相談できるような体制をとっていきます。またイベントを開催し、健康相談ブースを設け、健康状態の把握と必要に応じてフォローアップを行っていきます。
- ・地域コミュニティ形成の促進：仮設住宅で新たに立ち上がった自治会をサポートしていきます。また、はしかみ交流広場をあみもの教室など地域の交流の場として積極的に活用していきます。

### 震災支援を通して、新たな出会いに感謝

3月11日の東日本大震災後、励ましの言葉をいただき、被災地で継続した活動を行うことが出来ました。その皆さまの思いを私たちは勇気に変え被災地に向かうことができ、現在の生活支援プロジェクトKとの活動につながっています。生活支援プロジェクトKは、気仙沼市民によって立ち上がったNPOで、社会福祉系のお勤めをされている方々が理事をされています。巡回療養支援隊の健康相談班では、私たちが気仙沼の地理や事情がわからなくて困っていた時や、在宅被災者に迅速な対応が必要な際に、いつも相談にのっていただいていた。そのようなきっかけからシェアの働き方を見ていただき、共同事業について声をかけてくださいました。

震災支援はシェアだけでは到底できないことで、地元の方たちとの出会いと協力があったからこそ、今の活動ができています。新たな出会いに感謝し、少しでも気仙沼の皆さんのお役に立てるよう頑張っていきます。(西山美希)

# 市民が支えた東日本大震災緊急・復興支援

## 普及啓発 / 市民活動 / 広報

### ●講演会、活動報告会、講師派遣、研修

[シンポジウム]

・沖縄平和賞受賞記念シンポジウム「NPO/NGO がつなぐ、地域づくりと保健・福祉ーいのち・平和・持続可能な社会ー」（山城紀子氏記念講演、パネルディスカッション）

[活動報告会]

・国内保健報告会「日本にもあるいのちの格差ー在日外国人のおかれている現状」  
・東日本大震災保健医療支援活動報告会「緊急支援から復興フェーズへ 保健医療 NGO に求められる役割」 他（全9回）

[講師派遣]

・エイズ教育、ワークショップ:東京都 筑波大学附属高等学校 他（全19回）

[研修]

・JICA エイズ研修（全4回）

### ●調査研究（学会参加）

・日本国際保健医療学会 他（全3学会）

### ●教材制作

・冊子「楽しく学ぶ エイズ教育者のためのワークショップマニュアル」



沖縄のフリーライター、山城氏を迎えて開催した「沖縄平和賞受賞記念シンポジウム」(10月)



東日本大震災報告会では、多くの支援者が参加した(7月)

### ●イベント参加

・グローバルフェスティバル 他（全4回）

### ●スタディツアー、現地訪問受け入れ

タイ：シェア主催スタディツアー、明治大学他（全3回）

カンボジア：シェア主催スタディツアー、豊田日赤看護大学 他（全3回）

### ●ボランティア・サポーター企画

[ボランティア]

発送/事務作業、広報など47名の方に事務局運営をお手伝いいただきました。

[サポーター企画]

市民による東日本大震災 緊急・復興支援 募金活動

東日本大震災 緊急・復興支援のために、世界各地から独自企画でご支援をいただきましたので、ご紹介させていただきます。誌面が限られており、全ての方をご紹介できませんが、ご支援くださった皆さまに、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

・孝道山本仏殿 神奈川県にて街頭募金活動をしてくださいました。

・イタリアンレストラン「オステリア マデルナッサ」チャリティタ食会  
イタリアに在住する日本人の方が、職場であるレストラン「オステリア マデルナッサ」で共に働くイタリア人の仲間たちに呼びかけてくださり、募金を集めるチャリティタ食会を開催してくださいました。

・チャリティ教室「折り紙・おにぎり教室」

南アフリカのマシプメレレにあるエイズ孤児のためのホームで、チャリティ教室「おにぎり&折り紙教室」を開催してくださいました

・京都大学農薬ゼミ学生らによる震災復興支援「命をつなぐ復興プロジェクト」

\*ご支援の詳細は、ウェブサイトでご紹介しています。  
<http://share.or.jp/share/donate/charity.html>

### ●情報発信

東日本大震災緊急支援の活動状況をお知らせするために、ウェブサイトやソーシャルメディアを利用し、広く一般市民にシェアの活動を伝えました。

・機関誌発行「ボン・パルタージュ」(年2回)

・年次報告書発行

・広報紙「シェアライフ」発行(創刊、2回発行)

・メールマガジン発行(43回)など

・twitter 開始



グローバルフェスタの来場者にシェアの活動を紹介するインターン(10月)



イタリアで行われたチャリティタ食会。「日本のために何かしたい」という熱い思いを東北に繋げることができました。(4月)



南アフリカで行われたチャリティ教室。「多くのケープタウン住人の方からの真心です」とメッセージをいただきました。(4月)

チャリティ企画だけでなく、ガソリン缶や携帯充電器の寄付、車の貸与など、さまざまな形のご支援をいただきました。



### 教材ピックアップ!

#### エイズマニュアル 「楽しく学ぶ エイズ教育者のためのワークショップマニュアル 国際協力 NGO の実践から学ぶヒント集」

シェアタイでは、タイ国内で開発された様々なエイズ教育の手法を用いて、タイ東北部のエイズの予防と差別軽減のための啓発活動を実施してきました。その手法を日本風にアレンジし、日本の学校や地域でも数々のエイズワークショップを行ってきました。より多くの方々がワークショップを実施できるようにと、今回マニュアルにまとめることになりました。教育現場で役に立つ情報がぎっしりと詰まっています。 1,200円(税抜き)

\*シェアホームページ (<http://share.or.jp/shop/>) よりご注文ください。



海外の現場から学ぼう!



広報紙「シェアライフ」



支えてくださり、ありがとうございます。

## シェアの支援者

### 10万円以上の補助金、助成金、寄付金をいただいた団体・企業及び、事業連携先

- タイ
  - ・(特活) アーユス仏教国際協力ネットワーク
  - ・株式会社イオンフォレスト
  - ・外務省 (日本 NGO 連携無償資金協力)
  - ・世界エイズ・結核・マラリア対策基金
  - ・タイ国日本人会
  - ・株式会社フェリシモ
  - ・(財) 毎日新聞社東京社会事業団
  - ・FORD FOUNDATION INTERNATIONAL FELLOWSHIP PROGRAM
  - ・STANLEY THAILAND FOUNDATION
  - ・Thai Health Promotion Foundation
  - ・U1ゼンセン同盟「小さなお宝キャンペーン」
  - ・(特活) WE21 ジャパンあさお
  - ・(特活) WE21 ジャパンかなざわ
  - ・(特活) WE21 ジャパンざま
  - ・(特活) WE21 ジャパンたかつ
  - ・(特活) WE21 ジャパンほどがや
- カンボジア
  - ・自治労神奈川本部
  - ・日本労働組合総連合会 (連合「愛のカンパ」)
  - ・U1ゼンセン同盟「小さなお宝キャンペーン」
  - ・花王株式会社
  - ・花王ハートポケット倶楽部
  - ・(特活) WE21 ジャパンにのみや
  - ・(特活) WE21 ジャパンひらつか
  - ・(独) 国際協力機構 (JICA)
  - ・外務省 (日本 NGO 連携無償資金協力)
- 東ティモール
  - ・外務省 (日本 NGO 連携無償資金協力)
  - ・(独) 国際協力機構 (JICA)
  - ・(財) ベルマーク教育助成財団
  - ・(特活) WE21 ジャパンみやま
- 国内保健事業
  - ・東京都福祉保健局 (事業委託)
  - ・厚生労働省 (厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業)
  - ・(特活) ぶれいす東京 (事業協力)
- 東日本大震災緊急支援、復興支援
  - ・(特活) アーユス仏教国際協力ネットワーク
  - ・あやめ診療所
  - ・いちょう内科あしとみ
  - ・INSIEME PER IL GIAPPONE COMITATO LANGHE E ROERO
  - ・International Medical Corps (IMC)
  - ・(特活) WE21 ジャパン厚木
  - ・(特活) WE21 ジャパン相模原
  - ・(特活) WE21 ジャパン都筑
  - ・カトリックメリノール宣教会
  - ・経王寺
  - ・京大農薬ゼミ
  - ・(宗) 孝道山本仏殿
  - ・孝道山宝蔵大黒天讃仰会
  - ・(医) ことぶき共同診療所
  - ・(特活) 山友会
  - ・(一社) Think the Earth
  - ・Direct Relief International (DRI)
  - ・(特活) チャリティ・プラットフォーム
  - ・(特活) どさんこ海外保健協力会
  - ・西東京・生活者ネットワーク
  - ・(特活) ぱれっと
  - ・ピコーズインスチチュート株式会社
  - ・株式会社フェリシモ
  - ・SHARE Thailand
- その他
  - ・あやめ診療所
  - ・(医) いこいの森
  - ・(医) すくすく会 木村小児科
  - ・泉福寺
  - ・のぞみ助産院
  - ・有限会社ふれすか
  - ・本誓寺
  - ・六花亭製菓株式会社

### いのちのパートナー参加企業・団体

- ・株式会社コンジュートレードジャパン

## 組織運営

### ①海外駐在員

- ・タイ：広本充恵
- ・カンボジア：佐藤真美、虎頭恭子
- ・東ティモール：谷口加奈 (6月退職)、中山中 (6月着任)、守有紀、吉森悠

### ②国内スタッフ

小林由紀男、西山美希、山瀬直子、志澤道子 (6月退職)、青木美由紀、山本裕子、廣野富美子、花輪静香 (6月退職)、森本由布子 (7月退職)、甲元理子 (7月着任)、尾崎里恵 (5月着任)、田中美和 (7月着任)、井川麻耶 (5月着任～7月退職)、飯沢幸世、山脇克子 (1月着任)、中島瞳 (1月退職)、秋田真千代 (2月退職)、鈴木薫 (4月退職) 中山薫 (1月退職)、堀江恵子 (1月着任)、川村啓子、渡辺功

第10期インターン：岡本優子、近藤瑞穂、後藤千尋、田口裕樹、目黒ひかり、村田麻喜恵、矢橋紀子、堀内章子 (短期)

第11期インターン：佐藤真奈美、高木直美 (短期)、永田幸子、山澤優子

### ③役員

#### 理事

本田 徹 (代表理事、浅草病院 医師)、沢田貴志 (副代表理事、港町診療所 医師)

磯田厚子 (女子栄養大学 教授、日本国際ボランティアセンター (JVC) 副代表)、金澤俊弘 (公益法人協会専務理事・事務局長)、小林由紀男 (シェア事務局長)、鈴木直喜 (清泉女子大学 教授)、中久木康一 (東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究所 顎顔面外科学助教)、仲佐保 (国立国際医療研究センター 医師)、仁科晴弘 (江東病院 医師)、本橋栄 (元シェア事務局長、至誠学舎立川 社会福祉士)、柳澤理子 (愛知県立大学 教授)、李節子 (長崎県立大学大学院人間健康科学研究科教授)

#### 監事

蓮尾慶治 (アデコ株式会社、元日本民際センター事務局長)、高塚直子 (新井高塚会計事務所 公認会計士)

#### 顧問

鎌田實 (諏訪中央病院 名誉院長、日本チェルノブイリ連帯基金 理事長)、天明佳臣 (神奈川県勤労者医療生活協同組合 理事長)、石川信克 (結核予防会結核研究所 所長)

#### 専門委員

池上千寿子 (ぶれいす東京 理事)、工藤芙美子 (看護師 保健アドバイザー)、熊岡路矢 (元日本国際ボランティアセンター 代表理事)、藤田雅美 (世界保健機構本部 医師)

# 会計報告

特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会

## 平成23年度 特定非営利活動に係る事業会計財産目録

平成23年12月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額	
<b>I 資産の部</b>		
<b>1 流動資産</b>		
現金預金	86,244,974	
現金	24,040	
現金(外貨)	83,944	
三菱東京UFJ銀行 春日町支店普通預金	21,955,300	
三菱東京UFJ銀行 春日町支店定期預金	5,001,200	
三菱東京UFJ銀行 春日町支店外貨預金	4,325,937	
三菱東京UFJ銀行 上野支店普通預金	15,394,696	
三菱東京UFJ銀行 上野中央店普通預金	5,402,216	
三井住友銀行 飯田橋支店 基金	1,950,422	
三井住友銀行 飯田橋支店定期預金	10,000,000	
郵便貯金 普通貯金	288,551	
郵便振替口座	5,062,872	
気仙沼事務所 現預金	164,571	
海外事務所 現金預金	16,591,225	
タイ事務所	3,499,851	
カンボジア事務所	1,500,545	
東ティモール事務所	11,590,829	
棚卸資産(書籍在庫)	1,245,620	
前渡金	258,200	
未収金	10,595	
立替金	23,500	
仮払金	165,126	
<b>流動資産合計</b>		87,948,015
<b>2 固定資産</b>		
(1)有形固定資産		
車両運搬具	3,244,204	
(2)投資等		
事務所保証金	330,000	
敷 金	186,000	
<b>固定資産合計</b>		3,760,204
<b>資産合計</b>		<b>91,708,219</b>
<b>II 負債の部</b>		
<b>1 流動負債</b>		
未払金	5,761,307	
前受金	17,739,753	
未払消費税	385,800	
未払法人税	70,000	
源泉税他各種預り金	986,588	
<b>流動負債合計</b>		24,943,448
<b>2 固定負債</b>		
退職給与引当金	2,133,930	
シェア国際保健基金預託金	6,486,000	
<b>固定負債合計</b>		8,619,930
<b>負債合計</b>		33,563,378
<b>III 正味財産の部</b>		
前期繰越正味財産	29,915,377	
当期正味財産増減額	28,229,464	
<b>正味財産合計</b>		58,144,841
<b>負債及び正味財産合計</b>		<b>91,708,219</b>

上記の通り相違ありません。

平成24年3月17日

特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会  
代表理事 本田 徹

上記は原本と相違ありません。

代理人 澤田 貴志

特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会

## 貸借対照表

2011年12月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額	
<b>I 資産の部</b>		
<b>1 流動資産</b>		
現金預金	86,244,974	
現金	24,040	
現金(外貨)	83,944	
三菱東京UFJ銀行 春日町支店普通預金	21,955,300	
三菱東京UFJ銀行 春日町支店定期預金	5,001,200	
三菱東京UFJ銀行 春日町支店外貨預金	4,325,937	
三菱東京UFJ銀行 上野支店普通預金	15,394,696	
三菱東京UFJ銀行 上野中央店普通預金	5,402,216	
三井住友銀行 飯田橋支店 基金	1,950,422	
三井住友銀行 飯田橋支店定期預金	10,000,000	
郵便貯金 普通貯金	288,551	
郵便振替口座	5,062,872	
気仙沼事務所 現預金	164,571	
海外事務所 現金預金	16,591,225	
タイ事務所	3,499,851	
カンボジア事務所	1,500,545	
東ティモール事務所	11,590,829	
棚卸資産(書籍在庫)	1,245,620	
前渡金	258,200	
未収金	10,595	
立替金	23,500	
仮払金	165,126	
<b>流動資産合計</b>		87,948,015
<b>2 固定資産</b>		
(1)有形固定資産		
車両運搬具	3,244,204	
(2)投資その他の資産		
事務所保証金	330,000	
敷 金	186,000	
<b>固定資産合計</b>		3,760,204
<b>資産合計</b>		<b>91,708,219</b>
<b>II 負債の部</b>		
<b>1 流動負債</b>		
未払金	5,761,307	
前受金	17,739,753	
未払消費税	385,800	
未払法人税	70,000	
源泉税他各種預り金	986,588	
<b>流動負債合計</b>		24,943,448
<b>2 固定負債</b>		
退職給与引当金	2,133,930	
シェア国際保健基金預託金	6,486,000	
<b>固定負債合計</b>		8,619,930
<b>負債合計</b>		33,563,378
<b>III 正味財産の部</b>		
前期繰越正味財産	29,915,377	
当期正味財産増減額	28,229,464	
<b>正味財産合計</b>		58,144,841
<b>負債及び正味財産合計</b>		<b>91,708,219</b>

USドル=78.74円  
タイバーツ=2.53円

## 監査報告書

1. 監査事項  
特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会の2011年1月1日から12月31日までに実施事業並びに一般会計収支決算について

2. 結果報告  
監査の結果、事業は適正に実施され、また会計決算については、活動計算書、貸借対照表及び財産目録を諸帳簿、証憑書類と対照し、一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成されていることを認める。

2012年2月17日

監事 蓮尾慶治  
監事 高塚直子



活動計算書

2011年1月1日から2011年12月31日まで

(単位:円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1 受取会費	4,325,000	4,325,000	
2 受取寄付金	58,483,509	58,483,509	
3 補助金・助成金			
1.公的補助金	27,161,354		
2.啓発収入	3,817,826		
3.民間助成金	21,811,720	52,790,900	
4 基金収入	10,000	10,000	
5 事業収入			
1.自主事業収益	5,087,991		
2.受託事業収益	38,829,689	43,917,680	
6 その他収益			
1.受取利息	11,216		
2.雑収入	302,000	313,216	
<b>経常収益計</b>			<b>159,840,305</b>
II 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
給与手当	57,398,848		
臨時雇用賃金	493,760		
法定・福利厚生費	6,866,017		
人件費計	64,758,625		
(2) その他経費			
売上原価	150,318		
旅費交通費	11,237,330		
保健活動費	25,606,644		
保健活動設備費	1,211,807		
事務所他賃借料	3,139,537		
事務用品費・備品費	2,709,896		
減価償却費	1,479,273		
雑費他	9,244,761		
その他経費計	54,779,566		
事業費計		119,538,191	
2 管理費			
(1) 人件費			
人件費計	5,404,754		
(2) その他経費			
旅費交通費	633,336		
地代家賃	1,612,927		
事務用品費・備品費	512,266		
雑費他	3,753,419		
その他経費計	6,511,948		
管理費計		11,916,702	
3 その他損失			
1 雑損失	450		
2 為替差損	85,498	85,948	
<b>経常費用計</b>			<b>131,540,841</b>
当期経常増減額			<b>28,299,464</b>
法人税・住民税及び事業税			<b>70,000</b>
当期正味財産増減額			<b>28,229,464</b>
前期繰越正味財産額			<b>29,915,377</b>
次期繰越正味財産額			<b>58,144,841</b>

(注)特定非営利活動促進法第28条第1項の収支計算書を活動計算書と呼んでいます。

財務諸表の注記

1.重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日)NPO法人会計基準協議会)によっています。同基準では、特定非営利活動促進法第28条第1項の収支計算書を活動報告書と呼んでいます。

(1)棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準は原価基準により、評価方法は総平均法によっています。

(2)固定資産の減価償却の方法

法人税の規定に基づいて、有形固定資産は定額法で償却をしています。

(3)引当金の計上基準

退職給与引当金 従業員の退職給付に備える為、退職給与規定に基づく期末要支給額により計上しています。

(4)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込経理方式によっています。

2.事業費の内訳

事業費の区分は以下の通りです。

(単位:円)

科目	特定非営利活動に係る事業						その他事業 その他啓発	事業費計
	タイ事業	カンボジア事業	東ティモール事業	国内保健	JICAエイズ研修	震災支援東北		
(1) 人件費								
給料手当	7,865,817	14,066,141	14,898,999	2,543,719	2,470,520	11,633,188	3,920,464	57,398,848
臨時雇用賃金	140,000		353,760	0	0	0	0	493,760
法定・福利厚生費	1,081,572	1,707,983	2,058,590	576,696	0	854,490	586,686	6,866,017
人件費計	9,087,389	15,774,124	17,311,349	3,120,415	2,470,520	12,487,678	4,507,150	64,758,625
(2) その他経費								
売上原価							150,318	150,318
旅費交通費	670,174	1,326,333	2,371,394	240,528	1,432,700	4,532,294	663,907	11,237,330
保健活動費	5,065,835	2,331,390	6,867,828	4,651,899	97,763	3,102,389	3,489,540	25,606,644
保健活動設備費		5,124	4,1229	0		1165454	0	1,211,807
事務所他賃借料	137,880	1,100,436	734,357	0		1,166,864	0	3,139,537
事務用品費・備品費	294,446	272,770	320,463	23,670		1,731,933	66,614	2,709,896
減価償却費	0	1,479,273	0	0		0	0	1,479,273
雑費他経費	982,176	1,134,758	3,602,173	152,485		1,560,125	1,813,044	9,244,761
その他経費計	7,150,511	7,650,084	13,937,444	5,068,582	1,530,463	13,259,059	6,183,423	54,779,566
事業費計	16,237,900	23,424,208	31,248,793	8,188,997	4,000,983	25,746,737	10,690,573	119,538,191

3.使途等が制約された寄付金等の内訳

(単位:円)

内容	前期繰越額	当期受入額	当期減少額	次期繰越額	備考
外務省NGO補助金(タイ)	1,810,000	6,091,774	7,901,774	0	
" (カンボジア)	3,577,078	0	3,577,078	0	
" (東ティモール)	7,058,000	20,376,371	21,103,273	6,331,098	当期受入額との差額は前受金振替
民間助成金DRI (東北震災支援)	0	19,312,000	9,656,000	9,656,000	翌期に使用予定支援資金
合計	12,445,078	45,780,145	42,238,125	15,987,098	

4.固定資産の増減内訳

(単位:円)

科目	期首取得価格	取得	減少	期末取得価格	減価償却累計額	期末帳簿価格
有形固定資産						
車両運搬具	5,622,243	0	0	5,622,243	2,378,039	3,244,204
投資その他の資産						
事務所保証金	330,000	0	0	330,000	0	330,000
敷金	0	186,000	0	186,000	0	186,000
合計	5,952,243	186,000	0	6,138,243	2,378,039	3,760,204

5.役員及びその近親者との取引の内容

役員及びその近親者との取引との取引は以下の通りです。

科目	計上された金額	内役員及び近親者との取引
(活動計算書)		
寄付金(事業費)	58,483,509	1,170,756
活動計算書計	58,483,509	1,170,756

2011年度収支決算  
2012年度収支予算

自2011年1月1日 至2011年12月31日(単位:円)  
自2012年1月1日 至2012年12月31日(単位:円)

科目	2011年度 予算	2011年度 実績	執行率	2012年度 予算案	構成比	対前年度比
<b>収入の部</b>						
1.受取会費	5,200,000	4,325,000	83%	4,235,000	3%	98%
2.受取寄付金	44,302,923	58,483,509	132%	27,213,220	21%	47%
①用途指定寄付	27,142,923	45,847,606	169%	13,810,120	11%	30%
②用途無指定寄付	17,160,000	12,635,903	74%	13,403,100	10%	106%
3.政府/国連補助金	30,734,278	27,161,354	88%	12,556,554	10%	46%
4.受託事業収益	41,388,996	38,829,689	94%	48,091,852	37%	124%
5.民間助成金	9,520,822	21,811,720	229%	31,630,842	25%	145%
6.普及啓発収入	3,681,000	3,817,826	104%	3,160,880	2%	83%
7.自主事業収益	3,229,200	5,087,991	158%	1,818,970	1%	36%
8.基金収入	0	10,000		0	0%	0%
9.その他収益(雑収入・利息・差益)	0	313,216		300,000	0%	96%
当期収入合計	138,057,219	159,840,305	116%	129,007,318	100%	81%
<b>支出の部</b>						
1.海外活動費	84,142,070	70,910,901	84%	72,725,991	51%	103%
①タイ事業	19,138,586	16,237,900	85%	12,540,919	9%	77%
②カンボジア事業	26,988,181	23,424,208	87%	27,153,244	19%	116%
③東ティモール事業	36,815,303	31,248,793	85%	33,031,828	23%	106%
④南アフリカ事業	1,200,000	0		0	0%	-
2.国内活動費	37,831,577	41,630,783	110%	48,919,172	34%	118%
①国内保健活動	10,442,897	8,188,997	78%	11,681,485	8%	143%
②普及啓発活動	3,175,400	4,025,553	127%	2,303,000	2%	57%
③沖縄平和賞関連事業	5,000,000	1,491,609	30%	600,000	0%	-
④東北震災支援事業	13,500,000	25,746,737	191%	29,938,375	21%	116%
⑤市民社会ネットワーク	5,000,000	1,786,388	36%	4,216,312	3%	236%
⑥その他事業支出	713,280	391,499	55%	180,000	0%	46%
3.本部運営管理費	22,655,500	18,913,209	83%	20,100,552	14%	106%
①広報	5,618,500	4,832,163	86%	5,655,110	4%	117%
②支援者サービス	2,595,000	2,164,344	83%	2,927,780	2%	135%
③給与手当等	7,900,800	5,404,754	68%	5,445,906	4%	101%
④事務所賃借料・通信費等	6,541,200	6,511,948	100%	6,071,756	4%	93%
4.予備費	300,000	0	0%	300,000	0%	-
5.その他損失(雑損・利息・差損)		85,948		400,000		
当期支出合計	144,929,147	131,540,841	91%	142,445,715	100%	108%
当期収支差額	-6,871,928	28,299,464		-13,438,397		
法人税・都民税	70,000	70,000		70,000		
税引後収支差額	-6,941,928	28,229,464		-13,508,397		
前期繰越金	29,915,377	29,915,377		58,144,841		
次期繰越金	22,973,449	58,144,841		44,706,444		

\*前期までの消費税に関しましては今期より貸借対照表記入の為、省略させていただきます。

シェア国際保健基金 2011年度会計報告

2011年度貸借対照表

2011年12月31日現在(単位:円)

資産の部		負債と正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
I. 資産の部		II. 負債の部	
1. 普通預金	1,950,422	1. 基金預託金	6,486,000
2. 定期預金	10,000,000		
資産合計	11,950,422	負債合計	6,486,000
		III. 正味財産の部	
		1. 前期から繰越金	5,451,187
		2. 当期収支差額	13,235
		正味財産合計	5,464,422
合計	11,950,422	合計	11,950,422

2011年度収支報告書

自2011年1月1日 至2011年12月31日(単位:円)

科目	2011年度決算額
収入の部	
1. 基金収入(寄付金)	10,000
2. 基金収入(預託金)	0
3. 受取利息	5,225
4. 基金へ繰り入れ	1,000,000
当期収入合計	1,015,225
支出の部	
1. 残高証明他手数料	945
2. 租税公課	1,045
3. 基金償還額	1,000,000
4. 基金預託金への繰入	0
当期支出合計	1,001,990
当期収支差額	13,235
前期繰越金	5,451,187
次期繰越金	5,464,422



継続支援で地域を変える、毎月定期募金

2,000円以上のご寄付は  
寄付金控除の対象  
となります。



シェアは認定 NPO 法人です

## 「いのちのリレー募金」にご参加ください



シェアのプロジェクトは、支援者一人ひとりに支えられています。  
いのちのリレー募金へのご参加をお願いいたします。

シェアタイの HIV 陽性者リーダー研修で育った 8 名の村人が、実際に陽性者への家庭訪問やグループ運営活動を開始するには、新たに 18 人の「いのちのリレー募金」への参加が必要です。

HIV 陽性者への家庭訪問する陽性者リーダー。病院に行くことができない陽性者の健康チェックを行ったり、陽性者やその家族の相談にのります。遠方への家庭訪問は交通費がかかります。また、生活収入の糧である農作業の時間を削り、リーダー活動を行うことは困難です。シェアの研修で育った村人たちが、安心して活動することができるよう、ご支援をお願いします。



年々ニーズが高くなる、シェアの医療電話相談を円滑にすすめるためには、新たに 42 人の「いのちのリレー募金」への参加が必要です。

日本に暮らす外国人は約 200 万人、言葉や医療費などが壁となり、医療にかかることができない人が少なくありません。日本に暮らす外国人から、また病院など保健医療関係者から、医療電話相談のニーズは年々高まっています。医療にアクセスできない人を一人でも少なくするために、このニーズに応えることが求められています。



### ご参加方法

#### ① HP からクレジットカード決済

右記 URL よりお手続きください。http://share.or.jp/share/donate/relay/

#### ② 申込用紙を取り寄せて郵送

シェア東京事務局までご連絡ください。申し込み書をお送りします。

申込書は HP からダウンロードすることもできます。

## 皆さまからの募金でできること

- 2,000 円で HIV 陽性者への家庭訪問を 1～2 回できます。家庭訪問では、病院に来ることができない陽性者の健康チェック、陽性者やその家族の相談にのります。(タイ)
- 4,500 円で 3 日間の保健教育トレーニングに 2 人の教師が参加できます。トレーニングを受けた教師は、小学校で保健教育を推進する担い手となります。(東ティモール)
- 50,000 円で 一つの村での健診活動を 1 年間サポートすることができます。(カンボジア)

シェアは認定 NPO 法人です。皆さまからいただくご寄付は「寄付金控除」の対象となります。

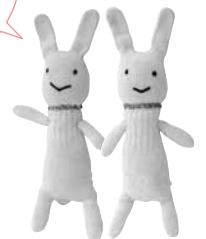
郵便振替	口座番号：00100-1-132730
	口座名：特定非営利活動法人 シェア国際保健協力市民の会

銀行振込	三菱東京 UFJ 銀行 春日町支店 店番号 062
	口座番号：普通預金 0866524
	口座名：特定非営利活動法人シェア国際保健協力市民の会 代表理事 本田 徹

クレジット決済	右記 URL よりお手続きください <a href="http://share.or.jp/join/donate/">http://share.or.jp/join/donate/</a>
---------	---



ボクたち、  
ぬいぐるみの監修は  
金森美世子さん



# SHARE

2012 年 10 月 31 日発行

発行 (認定) 特定非営利活動法人 シェア=国際保健協力市民の会

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 5F

TEL 03-5807-7581 FAX 03-3837-2151

http://share.or.jp E-mail info@share.or.jp

※本書の一部または全文を無断で複写、転載引用することを強く禁じます。



すべての人に健康を！  
Health for ALL!

身体が健やかである  
だから私たちは元気に働けるのです

心が健やかである  
だから私たちは家族に溢れる愛を注ぐことができるのです

地域が健やかである  
だから私たちは異なる価値を持つ隣人と歩めるのです

世界が健やかである  
だからこそ、人は未来へと生きることができるのです

その健やかな世界を全ての人とわかちあいたい

その熱い思いが行動となり、シェアが生まれました

シェアは今、アジア・アフリカの人々とともに活動しています

健康改善、エイズへの取り組み

健康で平和な世界を  
すべての人とわかちあう(シェア)ために